

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和1年(2019)10月10日

No. 142

発行 高津啓洋

パラグアイに緑のオアシスを



植樹後に皆さんと記念撮影

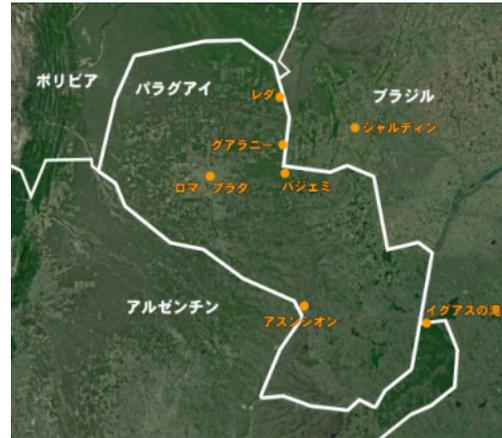
今年の青年奉仕隊は環境問題が深刻になっているパンタナール地域の一角、ガラニ村に学校の整備と、地域への植樹活動を行いました。

8月26日、アスンシオンに到着した一行は、バスで、27日ローマプラタに、メノナイトの人たちが築いた開拓村から始まり80年で、大きな都市を作り、今では乳製品の一大生産地になった歴史を学びました。

次に、舟で3日間かけて、30日にガラニ村に到着。早速、学校修復と生徒たちとの国際交流が始まりました。歓迎会で



レダで展開される様々なプロジェクトの説明を受ける



また来たいレダ

も初めての体験に喜々として参加していました。

3日間の奉仕活動で、きれいになった校舎、また心が通じ合った生徒たちとは、涙と感動の別れがあります。校長先生からも、「遠く地球の反対側から、来ていただき、このきずなを大切にしていきたい」と、話されていました。

その後、2日間かけてレダに移動しました。レダは、植樹された木々もよく管理されていて、多くの花が咲いています。

参加した青年たちは、そのまま数カ月滞在して奉仕をする人と、帰国する人がいますが「ぜひ、またレダに来たい」と、話していました。



は、パラグアイ伝統の綺麗な服を着ての踊り、また日本から持参した折り紙や、縄跳びなど、子供達